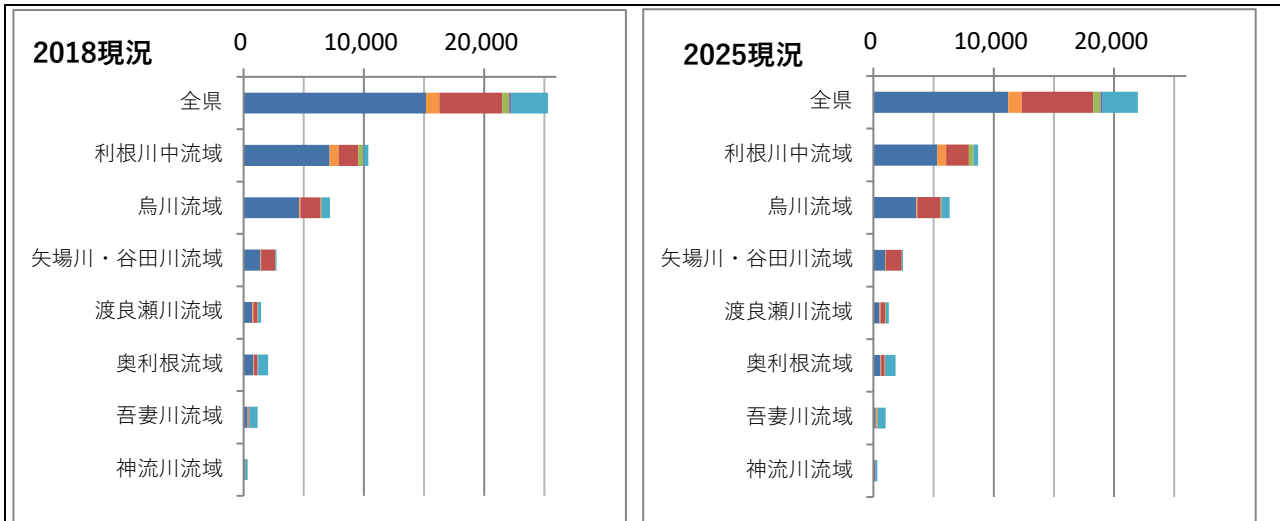
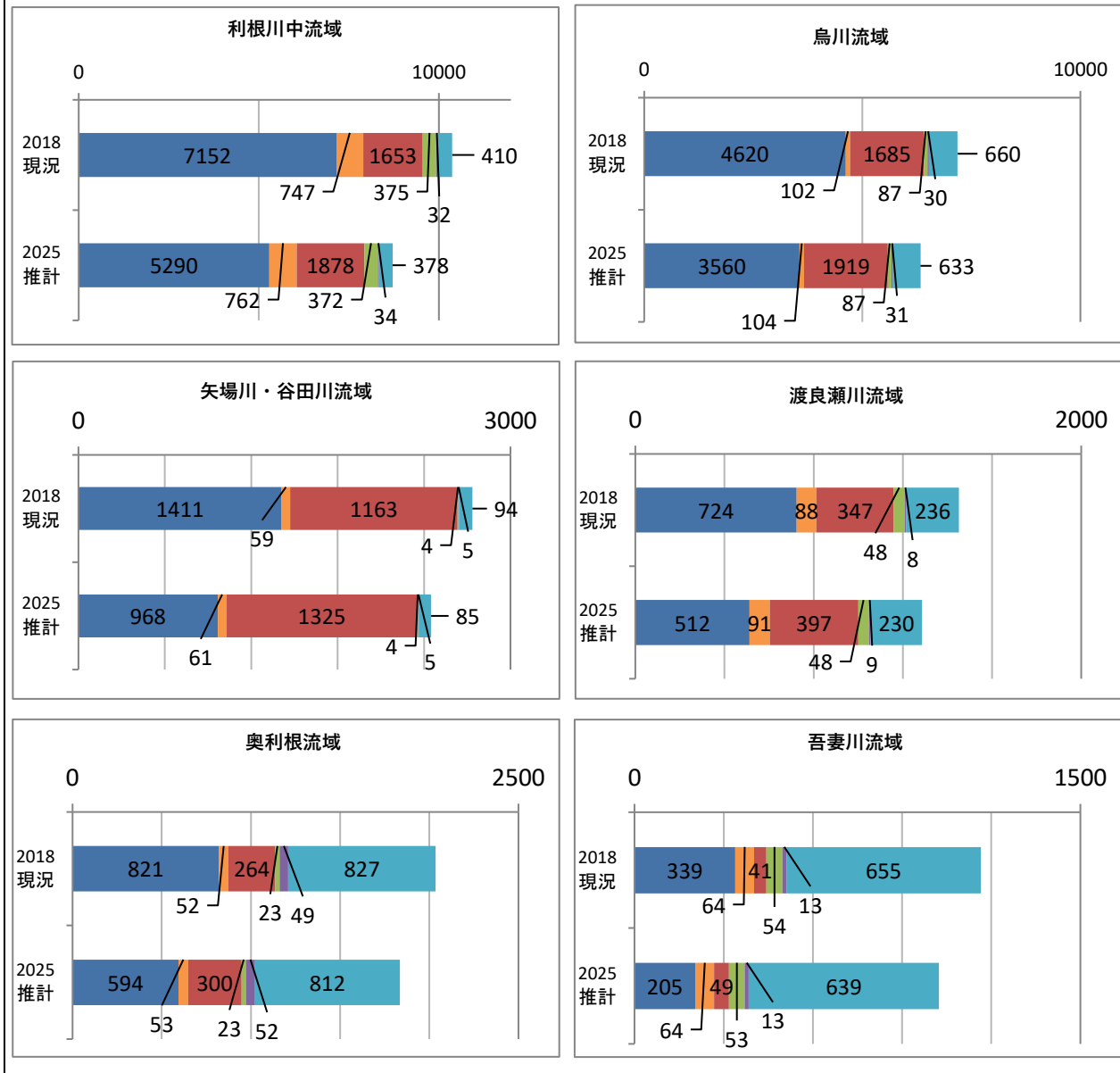


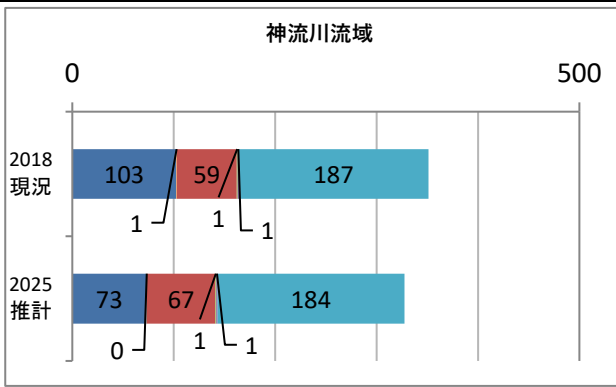
## 群馬県流域別環境基準維持達成計画について

<b>1-1 計画の趣旨・考え方</b>																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>本県を7つの流域に分割し、流域別に汚濁物質の発生源割合と河川水質を、現況と将来について推定し、環境基準達成や達成した状態を維持するために取り組むべき対策を明らかにする。</li> <li>水質保全行政に関する基礎資料として様々な形で活用できるようにする。</li> <li>衛生環境研究所の研究成果をもとに、湖沼の内部生産（植物プランクトンの増殖）の影響等を考慮し流達率（汚濁負荷が環境基準点に到達する割合）を再設定した新しいシミュレーションを採用。</li> </ul>																						
<b>1-2 計画の期間</b>																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画の期間は2021年から2025年の5年間。</li> <li>前計画では計画期間を10年間としていたが、細やかな将来推計を行うため、5年間とした。</li> </ul>																						
<b>1-3 計画の構成</b>																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>次表のとおり、5章構成となる見込みである。</li> </ul>																						
第1章	計画の目的																					
第2章	基礎条件の設定 ・ブロック分割 ・人口等フレームの配分 ・汚濁負荷量の算定方法																					
第3章	現況負荷量及び現況水質 ・現況負荷量の推定 ・現況水質の算定 ・現況負荷量及び水質 ・前回計画との比較																					
第4章	将来負荷量及び将来水質 ・将来負荷量の推定 ・将来水質の算定 ・将来負荷量及び水質																					
第5章	環境基準維持達成のための必要な施策等 ・流域ごとの負荷量及び環境基準維持達成の状況 ・将来における環境基準達成状況 ・環境基準を達成するために必要な施策について																					
<b>2 流達負荷量<sup>(※)</sup>の現況と将来推計</b>																						
<b>(1) 全県における流達負荷量</b>																						
各種統計データ等を用い、現況の流達負荷量と将来の流達負荷量を算出した。																						
<p style="text-align: center;"><b>全県 流達負荷量kg/日</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>生活系</th> <th>施設系</th> <th>産業系</th> <th>畜産系</th> <th>観光系</th> <th>自然系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018現況</td> <td>15,171</td> <td>1,113</td> <td>5,212</td> <td>593</td> <td>137</td> <td>3,069</td> </tr> <tr> <td>2025推計</td> <td>11,202</td> <td>1,135</td> <td>5,936</td> <td>589</td> <td>146</td> <td>2,963</td> </tr> </tbody> </table>		年次	生活系	施設系	産業系	畜産系	観光系	自然系	2018現況	15,171	1,113	5,212	593	137	3,069	2025推計	11,202	1,135	5,936	589	146	2,963
年次	生活系	施設系	産業系	畜産系	観光系	自然系																
2018現況	15,171	1,113	5,212	593	137	3,069																
2025推計	11,202	1,135	5,936	589	146	2,963																



(2) 流域ごとの流達負荷量



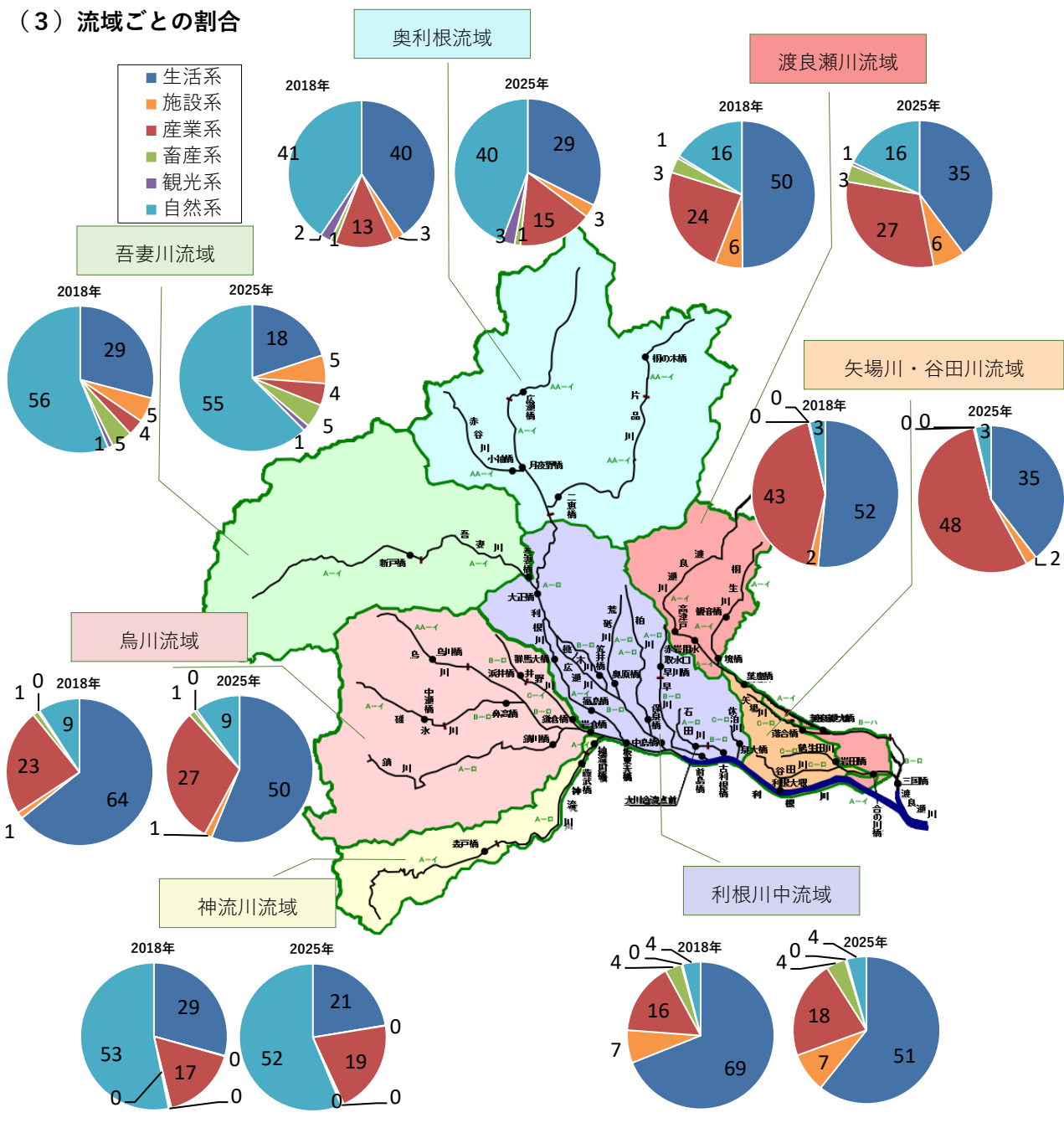


(参考)

生活系：各家庭から直接排出される単独浄化槽、合併浄化槽及びその他雑排水

施設系：下水処理場、農業集落排水処理施設、コミュニティプラント及びし尿処理施設

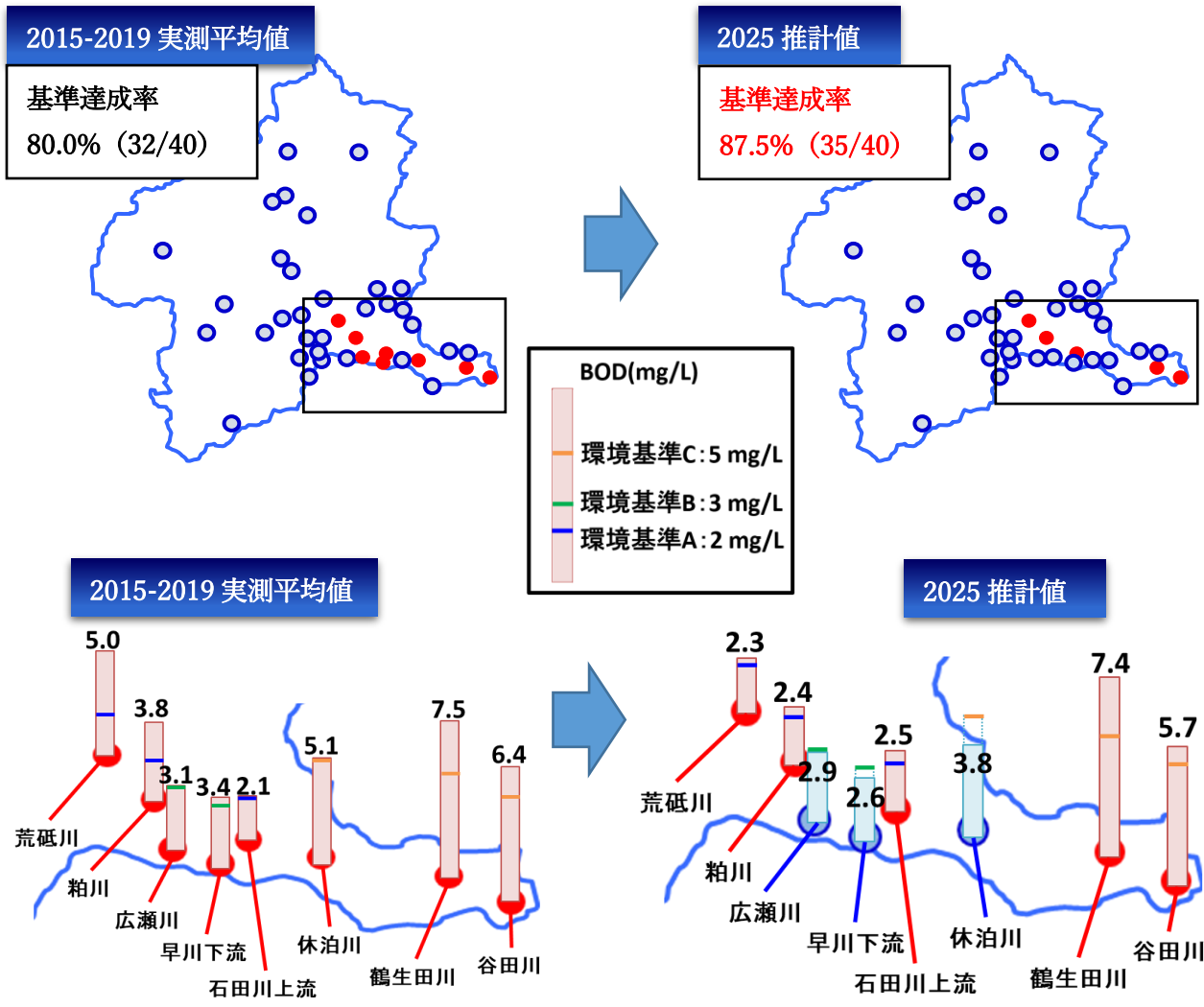
### (3) 流域ごとの割合



#### 4 河川水質の将来推計

2025年の推計流達負荷量から各環境基準点の水質を予測すると、BOD環境基準達成率は 87.5% と推計された。

(2025年には、40地点の環境基準点のうち35地点でBOD環境基準を達成できると予測。)



#### 5 推計方法

##### ① ブロックごとに、河川への負荷量を算出

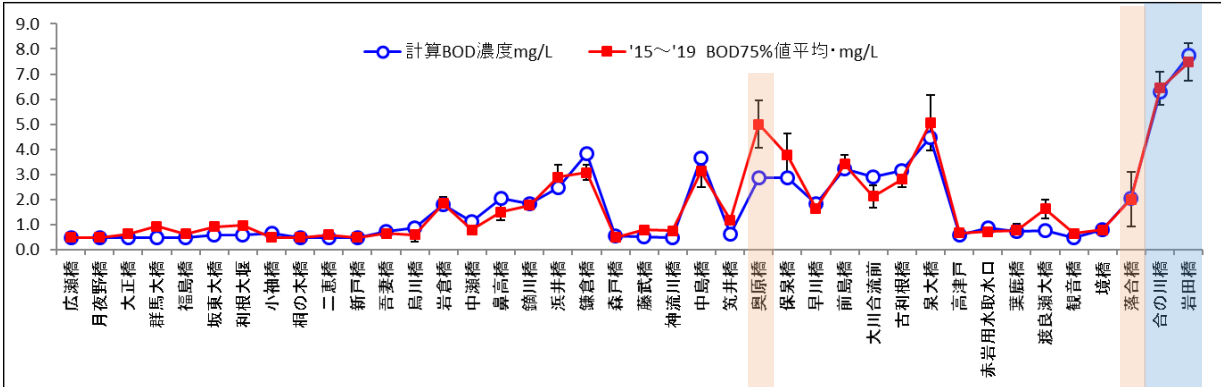
<汚濁負荷の種類>

- ・生活系
- ・産業系
- ・畜産系
- ・観光系
- ・自然系

・それぞれの汚濁負荷の種類について、各種統計データ等から得られた数値を1 km<sup>2</sup>メッシュごと、小流域のブロックごとに割り振り、負荷量を算出する。

② 算出した負荷量が環境基準点に到達する割合（流達率）を設定し、河川流量（低水流量）を用いて BOD を計算

③ 計算値と実測値を比較し、設定を見直し



BOD 計算値の基準達成率 = 80%      BOD 実測値の基準達成率 = 80%

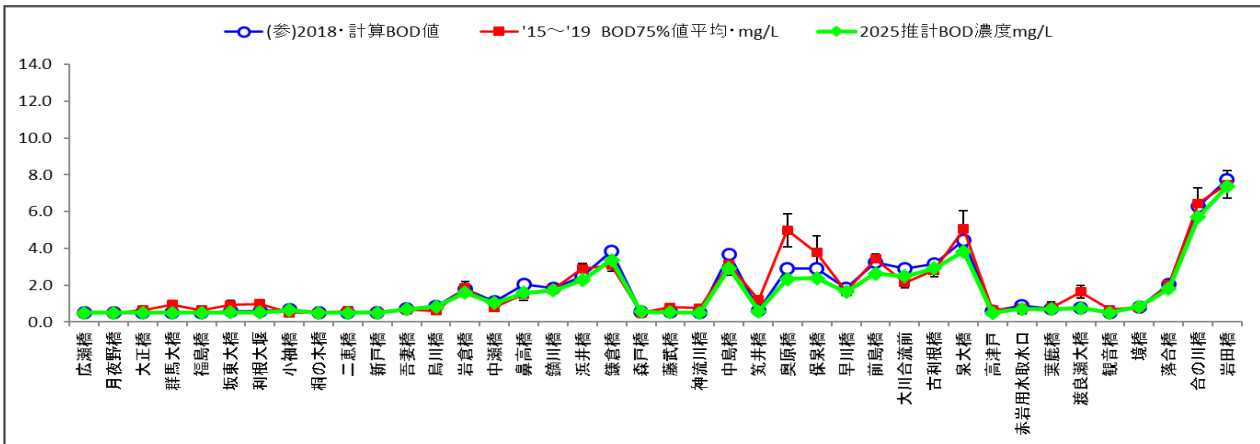
となり、おおむね精度よく BOD を算出できた。➡ 将来推計に利用

④ 各種の将来推計データから、将来の負荷量を予測

【予測】

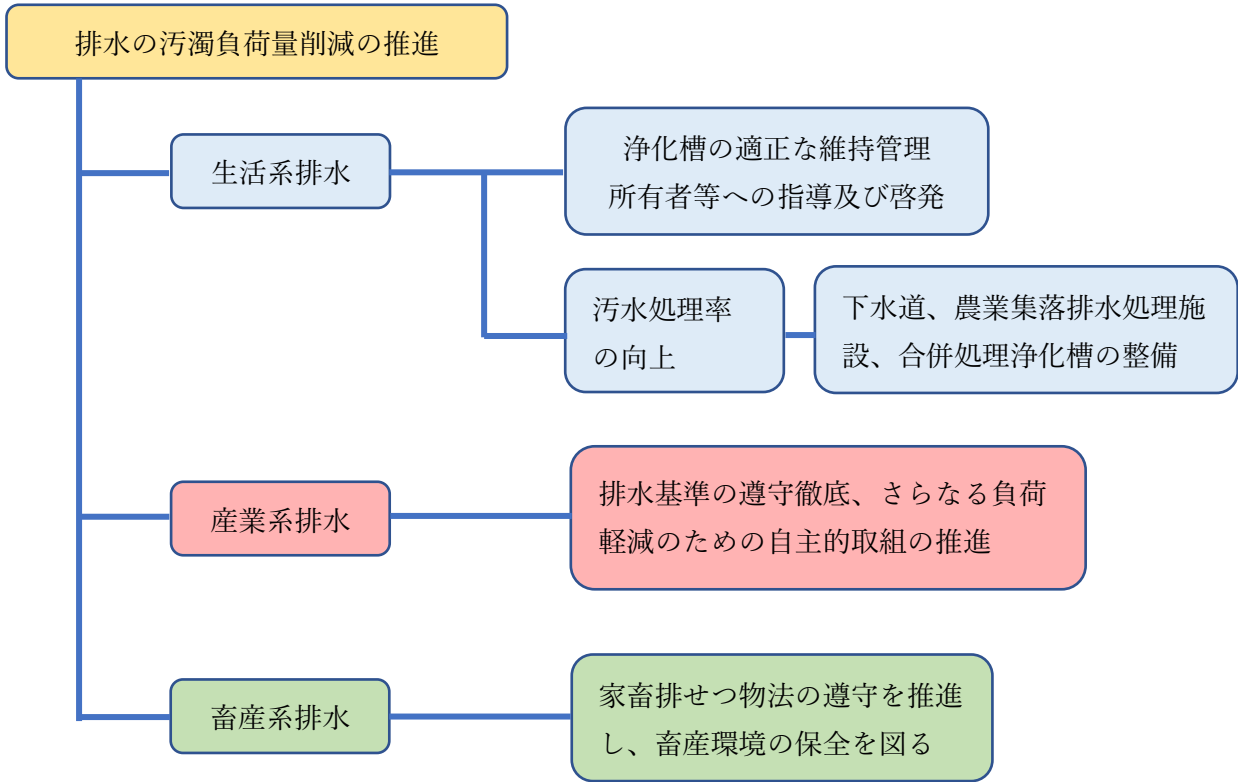
- ・生活系 減少↓
- ・産業系 増加↑
- ・畜産系 減少↓
- ・観光系 増加↑

⑤ 将来の予測負荷量と計算値をもとに将来推計



➡ BOD 環境基準達成率 87.5% と推計。

6 対策の方向性

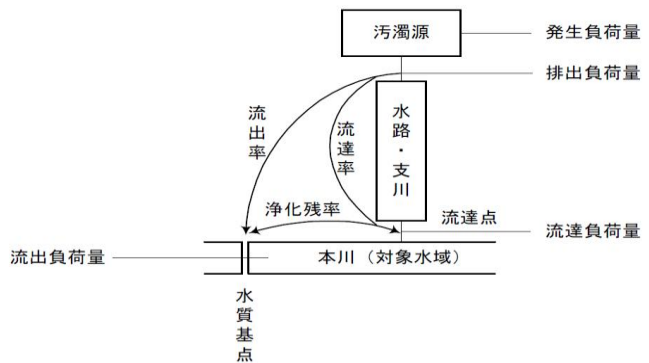


参考

(※) 流達負荷量とは

汚濁源から排出される排出負荷量に流達率を掛けたもの。

対象水域の本川に流入する負荷量を表しており、河川を汚す物質がどれだけ本川に流れ込むのかを数値化したものである。



負荷流出の概念図 ( 出典：「流総指針 H27.1」 )